

仮称東京湾岸大戦争の中で、私たち小規模業者が柔軟に活路を見つける方法として、かずさ地域は首都圏で最も恵まれた『緑と水』という21世紀の人類最大の財産を活用することだと考えます。

そこで観光農産物店を、と考えて先日『ふれあいパーク八日市場』を見してきました。

このパークは資料ですと年間120万人と公表され、県内トップの売上はマル秘ですと言いながらも・・・5億円くらいですと答えてくれました。

県内の道の駅は、沼南110万人、市原、八千代、富浦が80万人と言われ、八千代の客単価は凡そ一人1,100円くらいですので、八日市場の客単価には少し疑問が残ります。

地理的には八日市場駅から北へ車で10分位、東総広域農道に面した総面積5千坪程の見た目には、きみつ、三芳村と変わらないスケールでした。

データによれば、君津、安房地域への観光入込人口は凡そ2,700万人です。八日市場が属する海匝地域は540万人ですので、如何に君津地域の観光農産物の潜在需要があるかが推測されます。

八日市場の特徴は大木秀子さんを中心とした、会員150人の『かあちゃん達』が主力です。

地元農産物は勿論ですが、更にこれと加工したもので全店を埋め尽くしておりました。

私が着いたのは午後1時くらいでしたが、1ブース1坪くらいの売り場に各種色とりどりのお餅が並べられていました。つきたての温かいやわらかなお餅でしたので思わず土産にとたくさん買い込んできました。

『沼南』は国道16号線大島田から右へ入り、我孫子へ渡る手賀沼の橋の付け根にある小さな施設ですが、周辺には広大な畑地、沼、住宅地があり、これらが混然一体とした町で『平将門伝説』が至る所にあります。

私の友人の前・町長さんは相馬家の殿様、もう一人の友人小林さんは大地主なので、4年前から畑600坪を無償で提供し、秋になると親子三代芋掘り大会を行って、地域の小さな人づくり奉仕をしています。

経済環境の変化やスピードが一層速くなっています。

ますますよき友人と的確な決断が必要な時代といえます。